

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投信／国内／債券
信託期間と クローズド期間	2016年6月27日まで（2011年6月16日設定） 解約請求受付日（毎年3月、6月、9月、12月の各15日。ただし、当該日が休業日または別に定める日に該当するときは、当該日の翌営業日とします。）に限り解約可能。解約請求受付日に解約を行う場合、解約請求期間（当該解約請求受付日の6営業日前から当該解約請求受付日まで）に申し出るものとします。
運用方針	円建ての社債を主要投資対象とし、主として利子収益の確保をめざします。投資にあたっては、取得時においてA-格相当以上の格付けを有する発行体が発行する残存年数約5年の複数の銘柄に投資します。原則として、組入債券は償還されるまで保有するものとし、銘柄入替は行いません。ただし、組入債券の発行体の信用状況が著しく悪化した場合、または債務不履行となった場合等には、委託会社の判断で組入債券をすべて売却することがあり、その場合には信託契約を解約し、信託を終了させます。なお、債券の売却から信託の終了までの期間はコール・ローン等の短期金融商品や短期公社債のほか、短期資産マザーファンド受益証券への投資等により、安定運用を行います。原則として、満期償還時の元本確保をめざします。ただし、投資対象債券の発行体の状況等によっては、満期償還時の元本を確保できない場合があります。
主要運用対象	円建ての社債を主要投資対象とします。
主な組入制限	外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	元本超過額または経費等控除後の利子等収益のいずれか多い額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向、運用状況等を勘案して委託会社が決定します。原則として一定額（年間合計約50円～約108円）の収益分配（1万口当たり、税引前）をめざします。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

運用報告書(全体版)

5年満期型 円建て社債ファンド 2011-06

愛称：フルリール

第9期（決算日：2015年12月25日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「5年満期型 円建て社債ファンド 2011-06（愛称：フルリール）」は、去る12月25日に第9期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

三菱UFJ投信株式会社は2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、「三菱UFJ国際投信株式会社」となりました。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
URL:<http://www.am.mufig.jp/>

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル TEL. 0120-151034

(9:00~17:00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

◆ 目 次

5年満期型 円建て社債ファンド 2011-06のご報告

◇設定以来の運用実績	1
◇当期中の基準価額と市況等の推移	1
◇運用経過	2
◇今後の運用方針	5
◇1万口当たりの費用明細	6
◇売買及び取引の状況	6
◇利害関係人との取引状況等	6
◇組入資産の明細	7
◇投資信託財産の構成	7
◇資産、負債、元本及び基準価額の状況	8
◇損益の状況	8
◇分配金のお知らせ	8
◇お知らせ	8

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額			受利益 者利 債組入 比率	債券 先物比 率	元残 存率
		税金 分	込 配	み 金			
(設定日)	円						
2011年6月16日	10,000						100.0
1期(2011年12月26日)	9,565		38	△397	△4.0	△7.5	99.3
2期(2012年6月25日)	9,189		38	△338	△3.5	△7.2	98.5
3期(2012年12月25日)	9,949		38	798	8.7	0.4	97.8
4期(2013年6月25日)	9,812		38	△99	△1.0	△0.2	96.6
5期(2013年12月25日)	10,124		38	350	3.6	1.2	91.2
6期(2014年6月25日)	10,169		38	83	0.8	1.3	89.7
7期(2014年12月25日)	10,152		38	21	0.2	1.2	87.4
8期(2015年6月25日)	10,130		38	16	0.2	1.1	84.4
9期(2015年12月25日)	10,087		38	△5	△0.0	0.9	83.3

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドの募集手数料は販売会社がそれぞれ定めるため、受益者利回りは元本1万円に対して計算しております。

(注) 円建ての社債を主要投資対象とし、主として利子収益の確保をめざしますが、特定の指数を上回るまたは運動をめざした運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	基準価額			債券 先物比 率	債券 先物比 率
		騰	落	率		
(期首)	円					
2015年6月25日	10,130				98.5	—
6月末	10,132			0.0	98.5	—
7月末	10,130			0.0	98.4	—
8月末	10,130			0.0	98.4	—
9月末	10,130			0.0	98.8	—
10月末	10,128			△0.0	98.8	—
11月末	10,127			△0.0	98.7	—
(期末)						
2015年12月25日	10,125			△0.0	98.7	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

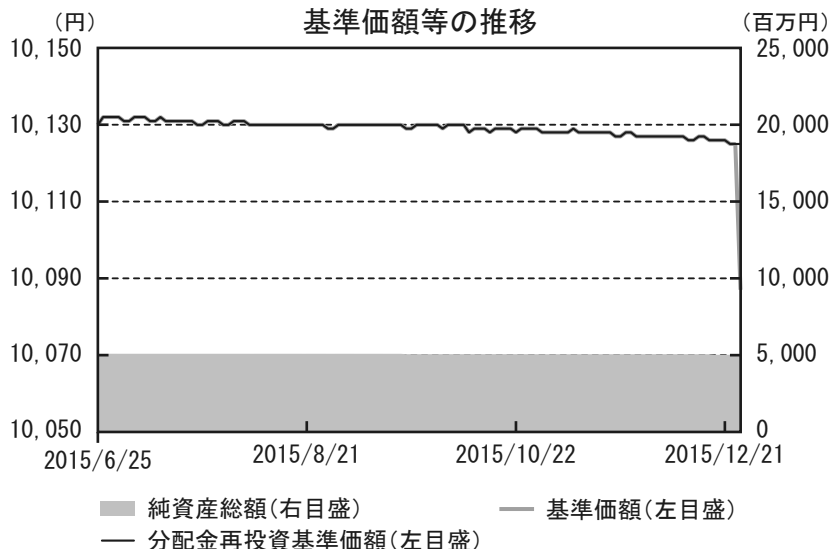
運用経過

当期中の基準価額等の推移について

(第9期：2015/6/26～2015/12/25)

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ小幅下落となりました。



第9期首 : 10,130円
 第9期末 : 10,087円
 (既払分配金 38円)
 騰落率 : -0.0%
 (分配金再投資ベース)

- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- ・単位型投資信託は実際には分配金は再投資されませんのでご留意ください。

基準価額の変動要因

上昇要因	債券利子収入を享受したことが、基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	組入債券価格が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

投資環境について

(第9期：2015/6/26～2015/12/25)

- ・中国株式市場急落などを受けた中国の景気減速懸念や商品市況の低迷などを背景に国内金利が低下（債券価格は上昇）基調となるなか、2015年12月中旬に日銀が「量的・質的金融緩和」を補完するための措置を導入すると、さらに金利は低下しました。また短期ゾーンの国債金利は、期末にかけてマイナスまで低下しました。
- ・事業債の国債とのスプレッド（国債に対する金利差）は、国債金利の低下によって小幅に拡大しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

- ・残存期間が約5年の円建ての社債を主要投資対象とし、その債券を原則として債券の満期まで保有することで、ファンドの満期償還時の元本確保（償還価額について、10,000円（1万円当たり）の確保）をめざし、運用を行いました。
- ・組入債券については、期を通じて高位組み入れを維持しました。
- ・当ファンドの運用方針に基づきING BANK N. V. とABN AMRO BANK N. V. が発行した円建て社債をそれぞれ5割程度の比率で保有を継続しました。
- ・当期は、債券利子収入を享受したものの、組入債券価格が下落したことにより、基準価額（分配金再投資ベース）は小幅下落となりました。

(注1) ING BANK N. V. は、銀行・保険持株会社であるING Groep N. V. の銀行部門を担う銀行子会社です。

(注2) ABN AMRO BANK N. V. は、銀行持株会社であるABN AMRO Group N. V. の銀行子会社です。

(ご参考)

利回り・平均残存期間・デュレーション (平均回収期間や金利感応度)

期首 (2015年6月25日)

最終利回り	0.3%
直接利回り	1.2%
デュレーション	1.0年
平均残存年数	1.0年

- ・数値は債券現物部分で計算しております (先物は考慮していません)。
- ・最終利回りは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価にもつくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・平均残存年数は、各債券の残存年数を債券の額面で加重平均したものです。

期末 (2015年12月25日)

最終利回り	0.3%
直接利回り	1.2%
デュレーション	0.5年
平均残存年数	0.5年

- ・数値は債券現物部分で計算しております (先物は考慮していません)。
- ・最終利回りは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価にもつくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・平均残存年数は、各債券の残存年数を債券の額面で加重平均したものです。

(ご参考)

債券の格付分布

期首 (2015年6月25日)

格付種類	比率	銘柄数
AAA格	0.0%	0
AA格	0.0%	0
A格	98.5%	2
BBB格	0.0%	0
BB格以下	0.0%	0
無格付	0.0%	0

- ・比率は純資産総額に対する割合です。
- ・格付の振分基準は、以下の通りです。
 - ・AA格 (AA+, AA, AA-, Aa1, Aa2, Aa3)
 - ・A格 (A+, A, A-, A1, A2, A3)
 - ・BBB格 (BBB+, BBB, BBB-, Baa1, Baa2, Baa3)
 - ・BB格 (BB+, BB, BB-, Ba1, Ba2, Ba3)
- ・原則として、個別銘柄格付を採用しておりますが、例外的に国債、地方債ならびに政府保証のある債券などについては、弊社の分類基準に基づいて、ソブリン格付 (国の発行体格付) を採用しているものがあります。
- ・格付分布はR&I社、JCR社、S&P社、Moody's社のうち最も高い格付を表示しています。

期末 (2015年12月25日)

格付種類	比率	銘柄数
AAA格	0.0%	0
AA格	0.0%	0
A格	98.7%	2
BBB格	0.0%	0
BB格以下	0.0%	0
無格付	0.0%	0

- ・比率は純資産総額に対する割合です。
- ・格付の振分基準は、以下の通りです。
 - ・AA格 (AA+, AA, AA-, Aa1, Aa2, Aa3)
 - ・A格 (A+, A, A-, A1, A2, A3)
 - ・BBB格 (BBB+, BBB, BBB-, Baa1, Baa2, Baa3)
 - ・BB格 (BB+, BB, BB-, Ba1, Ba2, Ba3)
- ・原則として、個別銘柄格付を採用しておりますが、例外的に国債、地方債ならびに政府保証のある債券などについては、弊社の分類基準に基づいて、ソブリン格付 (国の発行体格付) を採用しているものがあります。
- ・格付分布はR&I社、JCR社、S&P社、Moody's社のうち最も高い格付を表示しています。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・円建ての社債を主要投資対象とし、主として利子収益の確保をめざしますが、特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。
- ・従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、目標分配金額を年間合計で約76円としており、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。

【分配金】

決算期	1万口当たり分配金（税込み）
第9期	38円

今後の運用方針

◎運用環境の見通し

- ・雇用環境は着実に改善が続けていることや企業の設備投資意欲の高まりなどが見られるものの、個人消費が盛り上がり欠けることや新興国を中心とした海外景気の減速を受けて輸出が鈍化していることから、本邦景気の回復は極めて緩やかなものになると思われます。
- ・「物価安定の目標」の実現に向けて、日銀は引き続き現行の金融緩和姿勢をもって臨むものと思われ、国内金利はレンジ内での推移を想定します。
- ・国内事業債のスプレッドについては、日銀の社債買入オペや投資家の資金余剰感などによる良好な需給環境を背景に低位での安定推移を予想します。

◎今後の運用方針

- ・安定した利子収益確保をめざし、債券組入比率は引き続き高位に維持する方針です。
- ・ファンドの運用方針に基づき、原則として当初組み入れた債券を満期まで保有します。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2015年6月26日～2015年12月25日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 20	% 0.197	(a) 信託報酬 = 1 万口当たり元本 × 信託報酬率
(投 信 会 社)	(11)	(0.107)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(8)	(0.080)	分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.011)	投資信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.006	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.005)	外国での資産の保管等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	21	0.203	
期中の平均基準価額は、10,129円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売 買 及 び 取 引 の 状 況

(2015年6月26日～2015年12月25日)

公 社 債

		買 付 額	売 付 額
国 内	社債券	千円 —	千円 50,208

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注) 社債券には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

○ 利害関係人との取引状況等

(2015年6月26日～2015年12月25日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2015年12月25日現在)

国内公社債

(A)国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期			末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
普通社債券	4,920,000 (4,920,000)	4,943,529 (4,943,529)	98.7 (98.7)	— (—)	— (—)	— (—)	98.7 (98.7)
合 計	4,920,000 (4,920,000)	4,943,529 (4,943,529)	98.7 (98.7)	— (—)	— (—)	— (—)	98.7 (98.7)

(注) ()内は非上場債で内書き。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期			末	
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
普通社債券	%	千円	千円		
ABN AMRO BANK N. V.	1.296	2,480,000	2,492,598	2016/6/21	
ING BANK N. V.	1.171	2,440,000	2,450,931	2016/6/21	
合 計		4,920,000	4,943,529		

○投資信託財産の構成

(2015年12月25日現在)

項 目	当 期		末	
	評 価 額	比 率	評 価 額	比 率
公社債	千円	%	千円	%
	4,943,529	98.2		
コール・ローン等、その他	91,612	1.8		
投資信託財産総額	5,035,141	100.0		

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2015年12月25日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	5,035,141,852
コール・ローン等	90,195,493
公社債(評価額)	4,943,529,600
未収利息	665,471
その他未収収益	751,288
(B) 負債	28,845,774
未払収益分配金	18,859,463
未払信託報酬	9,916,043
その他未払費用	70,268
(C) 純資産総額(A-B)	5,006,296,078
元本	4,963,016,702
次期繰越損益金	43,279,376
(D) 受益権総口数	4,963,016,702口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,087円

○損益の状況 (2015年6月26日～2015年12月25日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	31,408,796
受取利息	30,657,508
その他収益金	751,288
(B) 有価証券売買損益	208,000
売買益	208,000
(C) 有価証券評価差損益	△24,101,700
(D) 信託報酬等	△10,340,312
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	△2,825,216
(F) 前期繰越損益金	65,461,323
(G) 解約差損益金	△497,268
(H) 計(E+F+G)	62,138,839
(I) 収益分配金	△18,859,463
次期繰越損益金(H+I)	43,279,376

<注記事項>

- ①設定年月日 2011年6月16日
 設定元本額 5,953,902,768円
 期首元本額 5,026,991,797円
 元本残存率 83.3%

また、1口当たり純資産額は、期末1,0087円です。

- ②計算期間末における元本超過額62,138,839円と費用控除後の配当等収益21,068,484円のうち、多い金額62,138,839円を分配対象金額として18,859,463円(1万口当たり38円)を分配金額としております。

(注) (D) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (G) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込み)	38円
----------------	-----

◆分配金は決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆課税上の取り扱い

・個人受益者が支払いを受ける収益分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率で源泉徴収されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかにも当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ(<http://www.am.mufig.jp/>)をご覧ください。

[お知らせ]

- ①2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三菱UFJ国際投信株式会社へ変更し、信託約款に所要の変更を行いました。(2015年7月1日)
 ②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%(法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。))の税率が適用されます。